

# 地ひびき



314号

## もう一つの卒業式

丸岡 稔

私が26年間、学校医をしていた長岡市立上組小学校は、長い歴史を持っており、近くには戊辰戦争の時参謀の置かれた光福寺があり、大きな酒造会社や味噌醤油の会社もあって、醸造の町とも言われたところにあります。この町にあつたペット数100床そぞこの病院に、今から丁度50年前に私は赴任してきました。まだ自動車は一般には普及していないく、休日や夜間の救急態勢は、勿論全く整つてなかつたので、毎日のように往診に飛び廻っていました。中越地震で有名になつた山古志村や濁沢、蓬平など、雪のある時はジープで時には全くの歩きで動かざるを得なかつたのですが、39才だった私は大きな充実感を味わつていました。そんなわけで、この学区の人達とは深い関わりを持つていました。この学校の校医になつたのは今から26年前、隣りの学区の現在地に自分の診療所を建ててからでした。

写真と対面して頂きました。

このところ度々、電話で「先生、仕事をやめられるんですか」と聞かれていますが、実は、一対一の日常の診療には不自由は無いのですが、会議や座談などで話が聞きとれることが多くなり、引退を決心したのです。年度末のPTAだよりに、その事が載つたようでしたが、診療は続けるということで喜んでもらえました。

4半世紀に及ぶこの学校での思い出は沢山ありますが、先ず「地

ひびき」の同人である結城和廣さんや濁川徳一君に出会つたのもこの学校でした。又、古い同人で数年前に亡くなられた小田イシさんも、この学校と深い関係がありましたし、斎藤みつ子さんをこの学校にご案内したこともあります。小田先生は、私の小学2年の時の担任で、新卒で来られたのですが、先生のご夫君が上組小学校の現役校長の時、急病で亡くなられています。その後、奥様のイシ先生が「こだま像」というボールを抱えた少年の彫刻を、この学校に記念として贈られています。この時の話を、私が学校医になつた時、イシ先生から聞かせて頂きました。10数年前、小田先生を学校に案内し「こだま像」と校長室に掲げられてあるご夫君の正治先生のお写真と対面して頂きました。

学校医になつた年の運動会に出席しました。5年生位の徒競走でしたが、走り出してすぐ、一人の生徒がおくれ出しました。足に障害を持っていたのです。他がみんなゴールした後も一人でけんめいに走る姿に、観ている人達が「がんばれ」「がんばれ」と声をかけます。私は、「地ひびき」の中心となつて活躍し、児童文学者として数々の珠玉の如き作品を書いた佐藤州男さんの代表作「しんちゃんが泣いた」の一場面を思い出しました。「何という素晴らしい学校なんだ」「何という素晴らしい学区なんだ」と、私はこの学校の校医になつたことを誇りに思つたのでした。

しかしその後、このような光景は見られなくなりました。ハンデを持った子が目立つてはいけないとなつたのです。何か大きなもの

「」こんなこともありました。毎年、内科検診がありますが、ある時、

養護の先生が「どうしても健診が受けられない子がいるのですが」と。何でも、学校には来るがずっと図書室にこもっていると言うのです。説得の自信があるわけではなかったのですが、先ず白衣を脱いで会つてみることにしました。彼は床に尻について本を見ていました。「何読んでいるの。面白い?」と声をかけ、私も腰を下して棚から本をとり出しました。彼は私の方をちらっと見ただけですぐ目を本に移します。少しして「ねえ、君、心臓の音聞いたことある?」と尋ねました。彼は黙って首を横に振りました。「聞いてみたい?」と言ふと顔を縦に振ります。私はポケットから聴診器をとり出して彼の耳にかけてやり、私の胸を開いて音を聞かせてやりました。「自分の心臓の音も聞いてみたいでしよう?」と言ふと「うん」と言います。それではと、彼の胸を開けて聴診器を当てるとき、彼の顔に驚きと微笑が浮かびました。「じゃあ又ね」と私は手を振り部屋を出て、「これで終りました」と養護の先生に報告しました。

年一回の保健室での内科健診の風景は、26年も今も殆ど変っていないません、ということは、1年生から6年生まで、子ども達の姿も変わらない。純真無垢な顔とからだに触れる度に、私は感動し続けてきました。そして、その都度、この子たちがみんな幸せに育つて欲しいと願わざには居られませんでした。

毎年、学校保健委員会というのがあり、生徒の健康と生活に関する報告があります。会の最後に学校医のコメントが求められるのですが、28年度は今年の2月7日に開かれ、私の最後の勤めとなり、

私は次のような感想を述べました。

健診で接する子ども達は、昔と少しも変わっていなく、みんな元気で幸せそうにしています。大きくなつて犯罪を起こしたりする子も小学校の頃はきっとこんなだつたに違いないと思うのです。子どもではなし、われわれ大人に原因があるのだと大きな責任を感じます。子ども達が育つて行く環境は26年前と比べ少しも良くなっています。今こそ学校教育、特に小学校教育が極めて重要だと考えます。基本となる学力は勿論大事ですが、子供同士の遊びや、出来るだけ多く自然に触れること、身近にある美しいものに目を向けること等を通して豊かな感性と想像力を養うことが、こうした世の中を生きる免疫力を高めることにつながると信じています。私は昨年、北イタリーのアジャゴという町での体験を話しました。長い歴史を持つ美しい町で、子供達が豊かな自然の中で、よく遊び、よく学び、そしてよく家の手伝いをしている。文明が進歩しても、大事なものを大事なものとして守っている家庭と地域の教育力の確かさを感じた話をしました。「私は、素晴らしい学校で、歴代の校長先生はじめ、職員、生徒の皆さん、そして地域の皆さんのおかげで学校医を続けて来られました。これからも子ども達の未来のために力を尽すつもりです。」としめくくりました。3月24日は卒業式です。今まで祝電で済ませて来ましたが、今年は初めて出席します。私の学校医としての卒業式もありますから。